

① 城ヶ丘保育園

発生日時 令和7年11月15日

保護者アンケートより 3件

※保護者アンケートの回答より

Q 玄関の感染症の人数を記入するボードが数日更新されていない事がある。何も流行っていない時はいいが、流行っている時は、毎日更新してほしい。

A 感染症が流行っている時には、増えた場合は主任が書き換えたり、気付いた担任が書き換えているが、毎日誰が記入するとは決めていない為、書き換えられていない日もあったかと思う。主任、担任が不在の日もある為、記入者は固定しておかず、毎朝の朝礼で感染症の人数等を確認し、朝礼後に主任不在の場合はフリーの職員や、朝礼に出ていた担任が書き換えるように決める。

Q 粗食の日、セレクトデーのお知らせが当日に入ると、朝早く家を出る為、間に合わないのもう少し早く配信してほしい。

A 配信を当日の朝にすることで見落としを防げと思っていたが、早く家を出る方にとっては、見てからの準備では間に合わなかった事もあったのではないかと。今後は前日に配信するようにする。

Q 1日に何回もきつずノートの配信があると見落とししてしまうので、1日1回にしてほしい。

A 保育園からのお知らせや、クラスからのお知らせがあり、1日に数回に分けて配信する事もあった為、そのように思われたのではないかと。今後はなるべくまとめて、回数をへらすよう、努力する。

Q 夕方のお迎え時に、下の駐車場で保護者が話をしている子ども達が周囲を走り回っていることがあり、危ないと感じる。園児を車に乗せてから話をする等してほしい。

A 保護者の意識が変わらないと改善は難しいと思うが、注意を促す声掛けや配信は引き続きしていく。保護者の集まる機会等に直接話をする事も大切なので、年に数回はその機会を設けるようにする。

② 保育園うさぎ

発生日時 令和8年2月21日

4歳児 女児の母親より保育士、保育園の対応について

・戸外遊びの際に、鉄棒で、職員が目を離していた時に滑ってしまい、右耳の後ろを打っていたが、その事を本児が職員に伝えずにいた為、そのまま帰宅した。母親が耳が赤い事に気付く、その場にいた職員からのお伝えがなかったと申し出てきた。母親としては、打った時の様子が知りたかったとの事だったので、付いていた職員に確認したが、泣く事もなく、申し出もなかった事で気付かなかったとの事。

鉄棒で遊ぶ際は、必ず職員がついて遊ぶことになっているが、その場を離れる時は、子ども達に声を掛け、いったんやめさせてから離れるか、他の職員に交替してから離れる事としていたが、それができていなかった事が原因である。今回は、付いていた職員に状況を確認し、その時目を離し状況を把握していなかったことを謝罪する。また、今後は対策を考え、子どもの安全・健康の管理をしっかりとしていく事をお伝えした。

他の職員にも今回の事を伝え、共通理解をし、今後の見守りに生かしていけるようにする。

③ 放課後児童クラブすずらん

発生日時 令和8年1月9日

利用児童 3年生の保護者より 活動中の怪我について

2026年1月9日16時20分頃、こども発達支援事業所すずらんの保育室にて、放課後等デイサービスを利用するTさん(9歳)が負傷する事故が発生しました。布ドッチボールの最中に投げられたボールを捕ろうとした際、勢い余って右手の指を室内の棚の側面に衝突させました。帰宅時に本人が痛みを訴え、指の腫れと内出血が確認されたため、保護者に病院受診を依頼しました。梅津整形外科病院でのレントゲン撮影の結果、「右第2指中節骨折」と診断され、ギブス治療をし、2月24日に完治しました。事後対応として、施設賠償責任保険を適用し、2月26日に保護者へお見舞金を支払いました。再発防止策として移動困難な棚を別の場所に移動し、机等を別室へ退避させること、また児童の特性を考慮し、興奮が高まる前にスタッフが休憩を挟むなど徹底します。

④ すみれクラブ

発生日時 令和7年11月8日

利用者女兒の母親より 指導員の対応について

学童保育「すみれクラブ」において、令和7年11月8日に保護者(母親)から職員の対応に関する相談を受けました。児童は学校から帰って来た時に「自分だけ虹を見せてもらえなかった」「園庭で危ないと怒られた」と訴え、保護者からはさらに「先生の声が大きくて子供が萎縮している」と指摘がありました。

施設側としては、その時には虹が薄くなっていた状況や、ランドセルを背負った児童が、すでに帰園して、園庭で鬼ごっこをしている他児と接触をする可能性があり危険だった事から部屋に入るように促した経緯を説明した後、子供や保護者に不安と不快な思いをさせたことを真摯に謝罪し、以後の改善を約束して納得を得ました。その後の経過は良好で、児童は変わらず通所しています。下の子の入院時には、きっずノートでの連携や市販の弁当を容認する柔軟な体制で保護者の負担を軽減しました。施設側は今後も配慮を怠らず、保護者の子育てに寄り添った対応を継続していく意向です。